



東海大学(台湾)・泰日工業大学(タイ)短期研修

群馬大学異文化理解プログラム



実施日：平成29年8月13日～平成29年9月2日(台湾) 平成30年3月12日～平成30年3月23日(タイ)
実施場所：東海大学 (台湾 台中)・泰日工業大学 (タイ バンコク)

東海大学(台湾)

1. 目的

- ・初の海外で異文化理解の第一歩を踏み出す。
- ・現地で中国語を学ぶことで、今後の学習のモチベーションを得る。
- ・台湾と日本の友人を作る。

2. プログラム概要

台湾・台中にある、東海大学へ20泊21日の短期留学に参加した。このプログラムは、中国語の勉強や、台湾文化に深く理解することをコンセプトとし、中国語学習・特別講座・大学生交流・文化体験・学外ツアーなど五つの分野からなる。



図1 中国語授業
プレイメントテストにより、三クラスに分けられる。発表やゲームなどを交えて楽しく学ぶことができた。



図2 捏麵人作り
台湾の伝統工芸品。着色された粘土で作る。接着剤を使わないのでくっつけるのが難しかった。



図3 九天で文化体験
九天という台湾文化体験施設で、フェイスペイント・ダンス・太鼓を体験した。最後に発表会をした。



図4 中国結び体験
カラフルな紐を使って中国結びで人形のストラップを作った。結構うまくできて、今でもカバンに付けている。



図5 虹村訪問
台中で有名な観光地の虹村に行った。カラフルな装飾が施されており、インスタ映えする景観であった。



図6 龍のひげ飴作り
四角い飴の塊を引き延ばし、龍のひげくらいになるまで細くする。クルミのソースを付けて食べるとおいしい。



図7 金柑畑訪問
金柑畑を訪問し、金柑ジャム作りを体験した。お昼には金柑料理バイキングがあり、大量の金柑を食べた。



図8 夜市
台湾の夜市は各地で行われており、低価格な商品が豊富。昼・夜飯はだいたい夜市で済ましていた。



図9 Farewell Party
最終日のお別れ会。出し物としてTWICEの「TT」のダンスを披露した。

3. 総括

A. 言語

台湾とタイでは、日本語が話せる学生が多く、楽しくコミュニケーションをとることができた。どちらの国でも授業はすべて英語で行われたが、意外と聞き取ることができて、理解に苦しむことはなかった。しかし、自分だけで街に飛びだして現地の人に話しかけると、思うように英語が出てこなくてとても苦労した。英語を聞き取ることができて、話すことはまだまだできないということを知り、自分の英語の非力さを痛感した。

B. 異文化理解

今回のプログラムにより台湾とタイの人と交流することができた。台湾・タイの学生はとてもやさしく、自分たちの行きたいところを言えば嫌な顔ひとつせずどこにでも連れて行ってくれた。特にタイの学生は常に笑顔で純粋な人が多く、見ているこちらにも幸せな気持ちになった。生活する中で日本とは違うことが多く、かなりカルチャーショックを受けた。例えば、タイではタクシーで乗車拒否されるなど…。しかし、その国の文化として理解することで、徐々に慣れていき楽しく生活することができた。ほかの国に行く場合はその国の文化に従うことが大切であると強く感じた。

C. 授業への取り組み

台湾での授業は中国語の授業が中心であった。自分は中国語ほぼ初心者だったが、参加者ほとんどが同じ初心者であったので安心して授業に取り組むことができた。授業形式は生徒を飽きさせないように発表やゲームを多く取り入れており、楽しく受けることができた。タイでの授業はタイの文化についての内容が中心であった。タイ料理や昔話、タイ語などタイの興味深い情報を知ることができた。ほとんどの授業がタイの学生によって行われ、我々を楽しませようとかかなり工夫を凝らして授業してくれた。自分も海外の学生のように、主体的に行動できるようにならなければいけないと思った。

D. 環境面

台湾・台中とタイ・バンコクは多くの高層ビルが建ち並び、群馬よりもはるかに都会であった。しかし、車とバイクの交通量がとても多く、空気が少し汚いように感じられた。特にタイでは、交通の便が悪く、常に交通渋滞が発生している状態だった。そのため、バスやタクシーで移動するときは目的地までかなりの時間を要した。また、道路にゴミがたくさん散らかっていて、日本の綺麗な道路に慣れている私にとっては気分があまり良くなかった。今後ますますの発展が期待される台湾とタイだが、環境面の政策もとっていくべきだと思った。

4. 謝辞

今回、私の短期留学にて、お忙しい中すべての手配をしてくださった国際課の高平さんはじめ、参加のアドバイスをくださった井門先生、現地でお世話になった東海大学・泰日工業大学の先生方、学生の皆様に感謝申し上げます。このような素晴らしい留学の機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。この経験を今後の勉強に生かしていきたいと思います。

泰日工業大学(タイ)

1. 目的

- ・台湾に続き異文化を体験・理解する。
- ・自分の英語がどれだけ通用するか試し、今後の学習のモチベーションを得る。
- ・タイと日本の友人を作り、人生を豊かにする。

2. プログラム概要

タイ・バンコクにある、泰日工業大学(以下TNIとする)へ12泊13日の短期留学に参加した。このプログラムでは、タイの様々な場所に行き、タイの文化体験を通して、異文化理解の視点を育むことをコンセプトにしている。



図1 Welcome dinner
初日の歓迎会。チャオプラヤ川でのナイトクルージングで開かれた。夜景を見ながら食べる料理は最高であった。



図2 タイ料理体験
タイ料理体験でソムタムを作った。日本でいうサラダのようなもので、独特な味がした。とても辛く、私には食べられなかった。



図3 マングローブ植樹
足場の泥がヌメヌメしており、感触はとても気持ち良かった。植えた苗が元気に成長することを願う。



図4 ウォーターパーク
プログラムの一環でウォーターパークに行った。アジア最大の広さで、様々なスライダーがあり、とても楽しめた。



図5 タイのお寺訪問
タイのお寺は参拝するときに帽子や靴を脱がなくては行けない。とても広い敷地で、観光客でにぎわっていた。



図6 タイダンス教室
タイパンツをはいて、タイのダンスを学んだ。手首の動きが細かくて、とても難しかった。



図7 ショー鑑賞
タイで有名な「KAAN SHOW」を鑑賞した。かなりアクロバティックで、クオリティーが高かった。



図8 プレゼン発表
最終日に日本文化について英語でプレゼンをした。私は「高崎ダルマ」についての発表をした。



図9 Farewell party
最終日のお別れ会の写真。皆で食事をしながら、カラオケで盛り上がった。